

巻頭のことば 「連合連携化のメリット」



私が道の駅の連合連携化という言葉¹を提唱し始めたのは6年前です。一つひとつは小さな村でも10ヶ所程度が連合してコンテンツを出し合えば都会の人を呼び寄せるパワーが乗数的に増えるだろうという発想で提案しました。

しかしながら現実は・・・

連合連携化を進めているところは少ないです。理念に共感していてもいざ行動するとなると躊躇し、アクションが遅いのが残念です。

思えばかつて徳川幕藩体制の時に全国に約300の藩がありました。藩の中は村々に分かれていました。藩同士、村同士の交流はほとんどありませんでした。峠を越えると別の国。一度も見ることなく生涯を終えた人もいたかもしれません。また、身分が違えば会話はおろか目を合わせることも無かったかもしれません。

現代になって身分社会も無くなり、藩や村の境界も様変わりし、交通手段が発展しました。しかし、それにより隣の村同士の交流は進んでいるのでしょうか・・・私はそう感じません。

言うまでもなく道の駅は村を代表する施設です。道の駅の連合化が進まないのは村同士の交流が進まないことと同義です。そしてその底辺には近代化・現代化以前からの、ある種の‘思い’があることに私は気付いたのです。それ以来、連合連携化を声高に言うことは止め、一点だけに絞って伝えています。

「連合連携化したほうが力のある企業とのビジネスがしやすくなる」

こちらの説明の方がずっと入りやすいのではないかと思います。

そういう訳で、やはり道の駅の連合連携化は進めたほうが良いと信じております。

未知倶楽部 賦勺尚樹

目次

巻頭のことば p02	連合連携化のメリット
特集アンケート p03	「道の駅」の人材育成
オピニオン p12	スタッフが情熱を表現できる場に／安藤直樹
トピックス p17	津軽連合が特産品カレーを共同開発、他
誌上セミナー p19	接客の基本は挨拶から
道の駅ニュースピックアップ p22	道の駅で米粉、他
お知らせ p23	未知倶楽部からのお知らせ